

# 在宅医療連携拠点 チームかまいしの連携手法と取組み



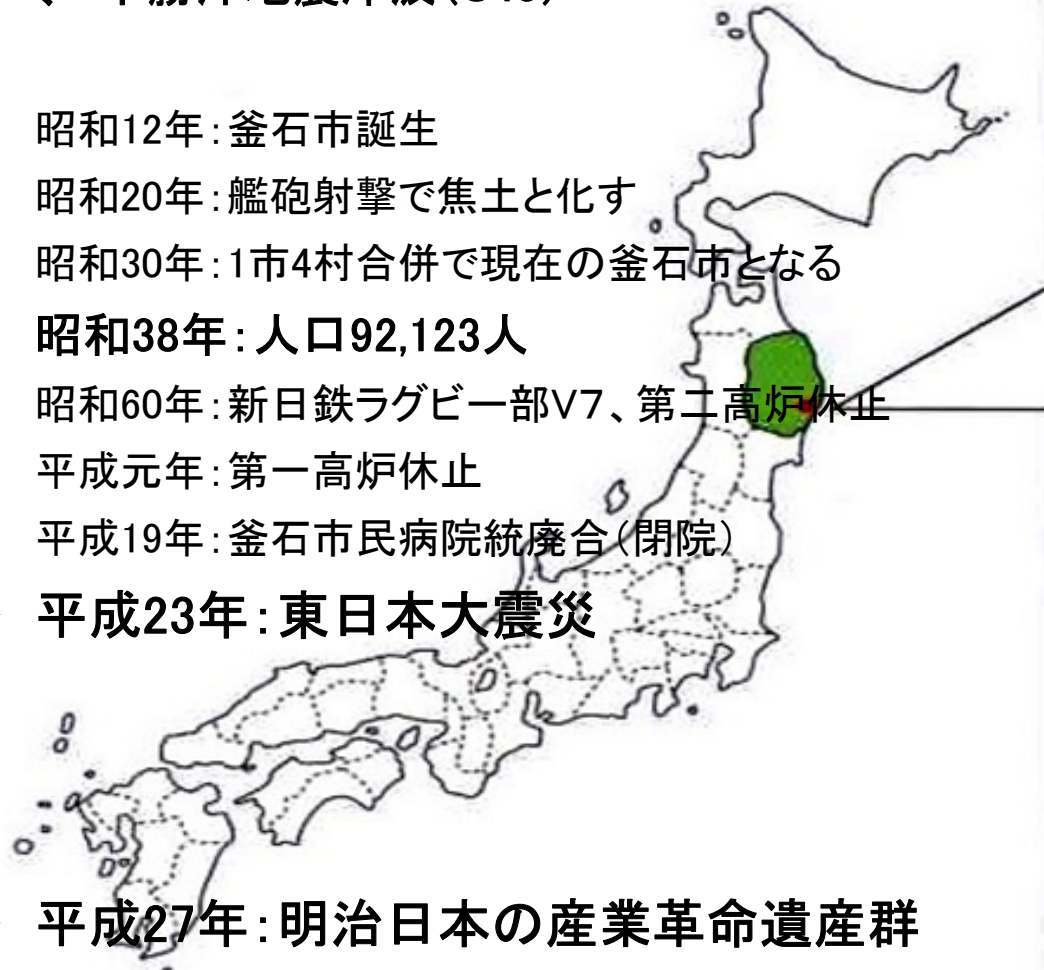
平成27年6月22日  
釜石市保健福祉部健康推進課  
地域医療連携推進室  
在宅医療連携拠点チームかまいし  
連携コーディネーター 小田島史恵

# 釜石市

- 三陸大津波(M29、S8)、チリ地震津波(S35)、十勝沖地震津波(S43)

- 昭和12年:釜石市誕生
- 昭和20年:艦砲射撃で焦土と化す
- 昭和30年:1市4村合併で現在の釜石市となる
- 昭和38年:人口92,123人
- 昭和60年:新日鉄ラグビー部V7、第二高炉休止
- 平成元年:第一高炉休止
- 平成19年:釜石市民病院統廃合(閉院)
- 平成23年:東日本大震災

- 平成27年:明治日本の産業革命遺産群世界遺産登録 !!!???



三陸復興国立公園のほぼ中央に位置する、鉄と魚のまち



2019年ラグビーワールドカップ開催地!!

## 岩手県の二次医療圏



◆釜石市  
面積 441.32Km<sup>2</sup>  
人口 36,569人  
高齢化率 35.3%

◆大槌町  
面積 200.59Km<sup>2</sup>  
人口 12,607人  
高齢化率 32.9%  
(H26.8月末現在)

## 釜石医療圏

釜石市・大槌町  
人口 49,203人  
高齢化率 34.7%

# 在宅医療連携拠点チームかまいし

◆平成24年7月1日 **釜石医師会との連携により**  
「在宅医療連携推進拠点チームかまいし」を設置

- 地域医療・介護連携の専門部署として、保健福祉部  
内地域医療連携部局に設置
- 医師会派遣のアドバイザー配置
- 連携コーディネーター配置



# 行政と三師会(医師会・歯科医師会・薬剤師会)との連携

平成25年  
**三師会新年交賀会**  
日時:平成25年1月23日(水)午後6時30分  
場所:ホテルサンルート釜石 2階

平成26年  
**三師会新年交賀会**  
日時:平成26年1月29日(水)午後6時30分  
場所:ホテルサンルート釜石 2階 鳳凰の間

平成27年  
**三師会新年交賀会**  
日時:平成27年1月29日(木)午後6時30分  
場所:ホテルサンルート釜石 2階 鳳凰の間

釜石医師会・釜石歯科医師会・釜石薬剤師会



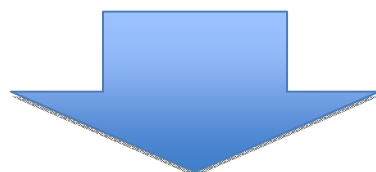


# 地域医療崩壊の危機に直面、そして…

平成19年3月：県立釜石病院との合併による釜石市民病院の閉院

急性期病院同士の『合併』による県立釜石病院の疲弊

地域医療崩壊の危機に直面

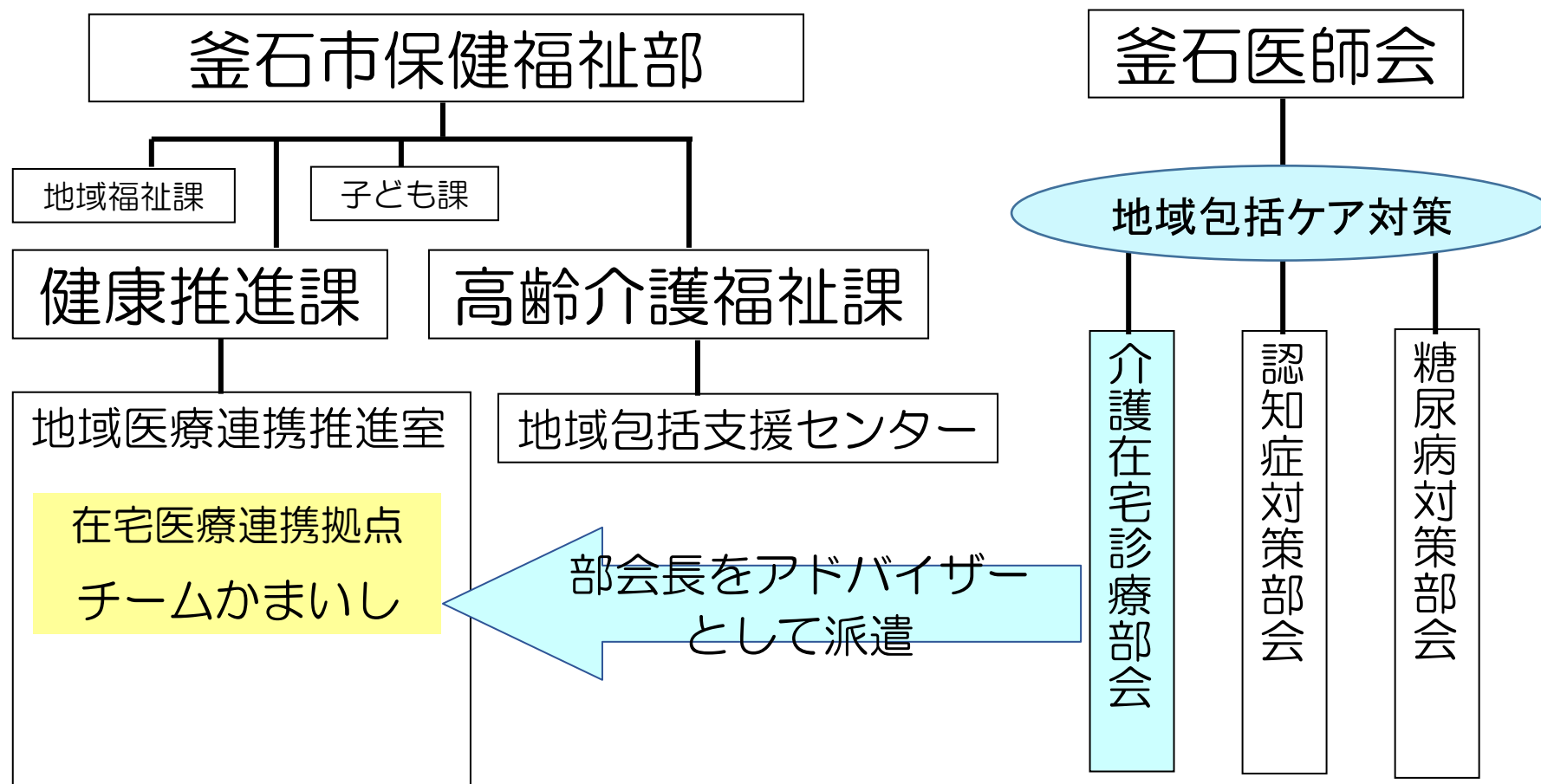


地域医療全体におけるベースコンセンサス

## 「県立釜石病院を守る」

- ▶ 地域で共有された連携のモチベーション
- ▶ 在宅医療も県立釜石病院を守るために何ができるかという視点から役割を分担されている。
- ▶ 平成20年6月：釜石市保健福祉部健康推進課地域医療連携推進室設置

# チームかまいし関連組織図



# 釜石市保健福祉センター



ご案内	
9階	釜石市保健福祉センター <small>釜石市立釜石公民館</small> ( 研修室・研修ホール・講義室・食堂 )
8階	釜石市社会福祉協議会 釜石市保健福祉センター <small>釜石市立釜石公民館</small> ( 活動ホール・集会室 )
7階	釜石のぞみ病院 ( 病室701~719 )
6階	釜石のぞみ病院 ( 病室601~620 )
5階	釜石のぞみ病院
4階	釜石のぞみ病院
3階	釜石ファミリークリニック ( 外来受付・診察室・在宅療養科 ) 釜石のぞみ病院(婦人科) ※旧中谷レディースクリニック
	釜石のぞみ病院 ( レントゲン室 )
2階	釜石市保健福祉センター ( 健康相談室・地域福祉課・高齢介護福祉課・健康福祉課 ) 釜石整形外科クリニック ( 外来受付・診察室 )
1階	釜石のぞみ病院 ( MRI撮影室・給食科 ) 総合案内・売店・喫茶 ( ☎ )

【釜石のぞみ病院】  
在宅医療診療所のバック  
アップベッドとして機能



# 財 源

平成24年度

厚生労働省委託モデル事業

在宅医療連携拠点事業

平成25年度～平成27年度

岩手県補助事業（地域医療再生基金）

在宅医療介護連携促進事業

在宅医療介護連携コーディネート事業

# 求められるタスク

平成24年度

## 在宅医療連携拠点事業

- 多職種連携の課題に関する解決策の抽出
- 在宅医療従事者の負担軽減
- 効率的な医療提供のための多職種連携
- 在宅医療に関する地域住民への普及啓発
- 在宅医療に関する人材育成

平成25～27年度

## 在宅医療介護連携コーディネート事業

- 地域課題の解決に向けた検討を行う取組み
- 地域内外の連携を推進する取組み
- 在宅医療の提供体制のための取組み
- 在宅医療介護に係る人材育成のための取組み
- その他の取組み

# 地域支援事業(包括的支援事業)

○在宅医療・介護連携の推進 ※釜石市はH28年度から

ア) 地域の医療・介護の資源の把握

イ) 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討

ウ) 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進

エ) 医療・介護関係者の情報共有支援

オ) 在宅医療・介護関係者の関する相談支援

カ) 医療・介護関係者の研修

キ) 地域住民への普及啓発

ク) 在宅医療・介護連携に関する関係市町村の連携

# チームかまいしの連携コーディネート手法

## ◆ **一次連携** (連携拠点と一職種による連携) ※連携の基盤

課題の抽出と解決策の検討・実践

職種内の気づきと課題の共有の促進

⇒ 連携拠点が職種内課題解決のための取組みを支援

## ◆ **二次連携** (連携拠点が仲介する複数職種の連携)

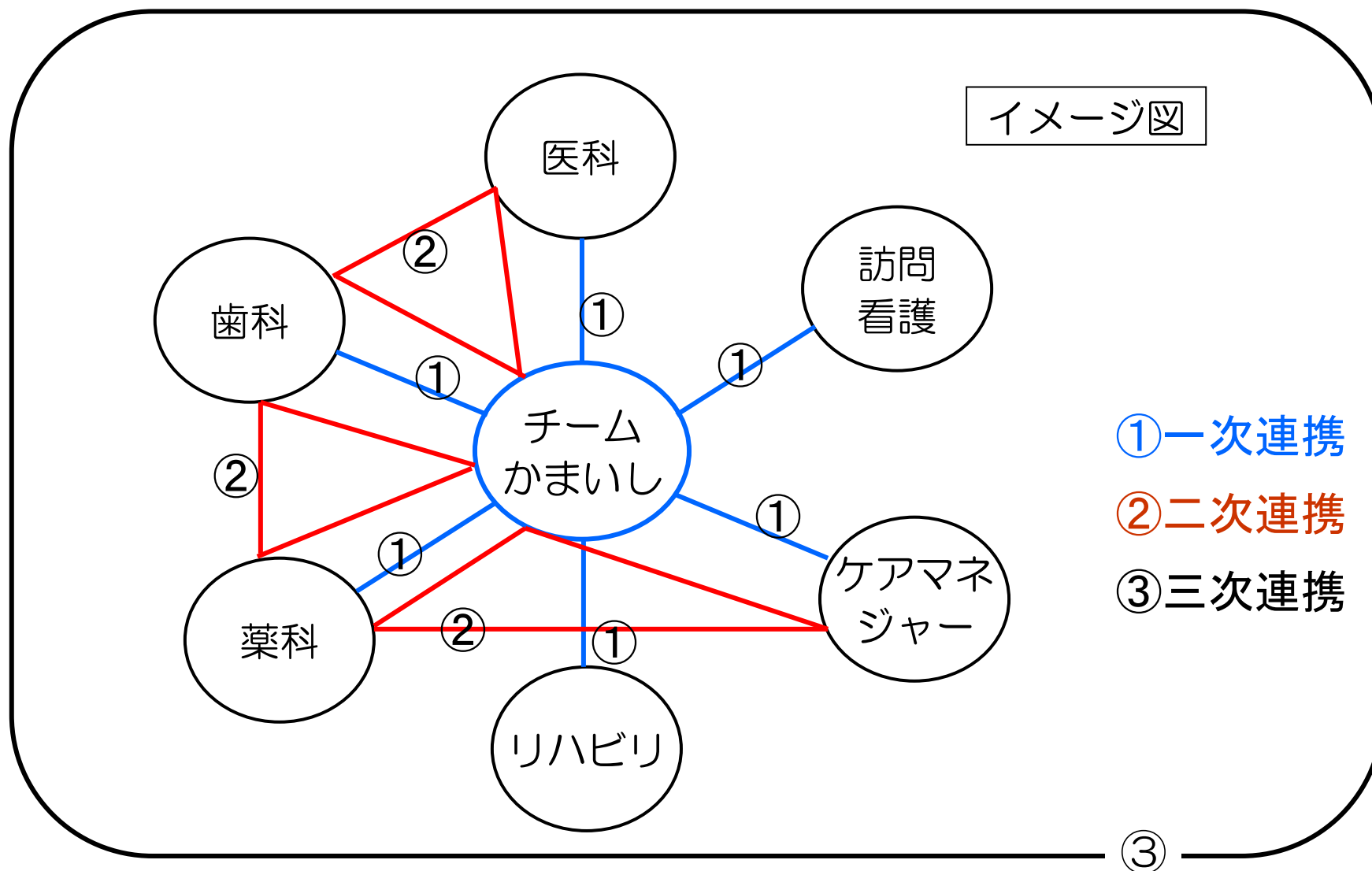
一次連携のニーズをマッチングすることで連携構築を支援

⇒ 医科歯科同行訪問研修、多職種合同研修会等を実施

課題の抽出と解決策の検討・実践

## ◆ **三次連携** 地域全体のコンセンサス形成の場

# チームかまいしの連携コーディネート手法





# 《三次連携》 多職種が一同に会する機会

- ◆釜石市在宅医療連携拠点事業推進協議会
- ◆釜石・大槌地域在宅医療連携体制検討会



多職種連携の第一歩  
顔の見える関係  
づくり  
連携に関する  
コンセンサス  
形成の場

## 【課題】

課題解決のための  
現場レベルの連携  
プロジェクトが進まない



# 《一次連携》 職能団体との打ち合わせ会

各職種がお互いの事情を言い出せる土壌づくりと  
連携の種まき

歯科医師会と



薬剤師会と



病院連携室と



ケアマネ協議会と



リハ士会と



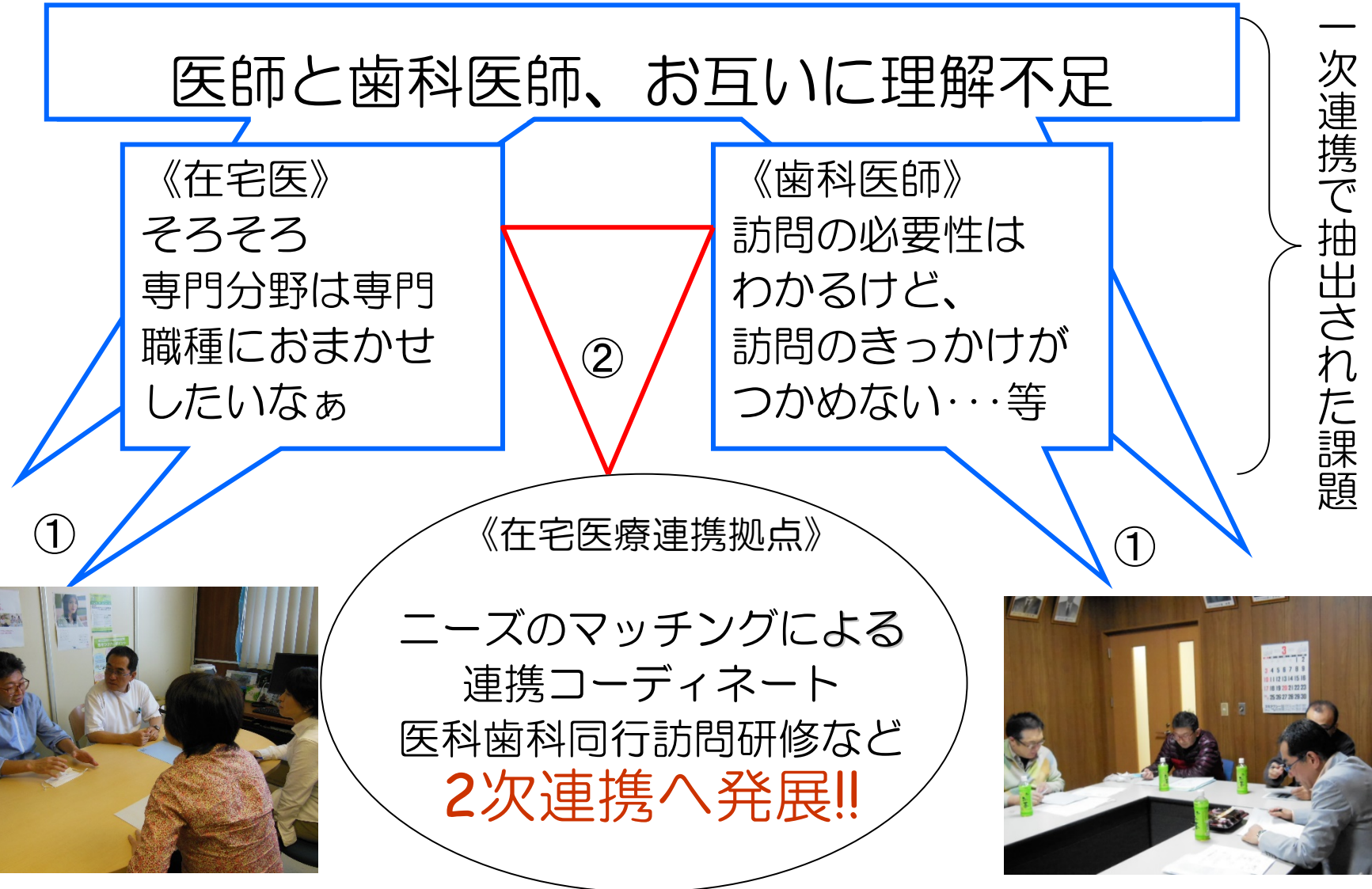
訪看ステーションと



「釜石リハ士会」の設立を支援



# チームかまいしの連携コーディネート手法



# 《二次連携》

## 医科歯科同行訪問研修 H25～



# 《二次連携》医科歯科連携の成果物 在宅療養患者の歯科紹介システム

## 訪問歯科診療に関する医科歯科連携フロー

医師が患者宅を訪問する

- ◆ 患者が歯科治療を希望している
- ◆ 歯科治療を要する患者であると思われる(医師の判断)

「かかりつけ歯科医」か  
「患者が希望する歯科医」  
につなぐ

訪問開始

訪問不可

かかりつけ歯科医なし

「釜石歯科医師会チームかま  
いし連携委員会」につなぐ

訪問不可

医療連携参加の意思が  
ある会員につなぐ

かかりつけ歯科医の決定  
→ 訪問開始





# 《一次連携》ポイント&効果

## 【ポイント】

### ➤ 会議ではない

- 雑談も交えつつ、ざっくばらんに職種特有の事情が話せるように何度でも
- 具体的なケースについての相談・意見交換に発展することもあり

### ➤ 職能団体という単位にこだわりあり

- 連携に熱心な事業者・個人単位では、連携が広がらない。公平でない。
- 出席者は情報(課題・解決策案)を団体にフィードバック
- 一職種に絞ることで、他職種の目を憚らず発言しやすい

## 【効果】

### ➤ 職能団体自らが課題に気が付く

- 課題の多くは自らの職種、団体、職場にあることが判明

### ➤ 必然的に職能団体自らが解決策を検討・実施へ

- 研修会開催など、チームかまいしが支援

# 一次連携で抽出された課題解決のための 職能団体主催研修への支援・協力

## 【平成25年度】

- ・チームかまいし医科歯科連携推進セミナー
- ・釜石リハ士会主催多職種対象研修会
- ・釜石薬剤師会主催多職種研修会
- ・釜石三師会主催学術講演会

## 【平成26年度】

- ・釜石医師会学術講演会
- ・釜石広域介護支援専門員連絡協議会主催研修会
- ・釜石薬剤師会主催多職種研修会



# チームかまいしによる連携支援事業



## ◆釜石医師会学術講演会

日時:平成26年8月21日(火)18時

参加者:73名

講演:「地域住民・患者のための基幹病院と  
開業医の連携の展望」

講師:小森貴氏 (日本医師会常任理事)



## ◆釜石広域介護支援専門員連絡協議会主催勉強会

日時:平成26年10月12日(日)18時

参加者:58名

講演:「地域包括ケアにおける医療と介護の連携について」

講師:秋山正子氏

(株)ケアース白十字訪問看護ステーション統括所長)



# チームかまいしによる連携支援事業

## ◆薬剤師会主催多職種連携研修会

日時:平成27年3月5日(木)18時45分

参加者:87名(薬剤師24、他職種63)

講演&ケーススタディ

「在宅患者さんを通しての多職種コミュニケーション  
～服薬支援を通しての多職種コミュニケーション～」

講師:井手口直子氏

(帝京平成大学薬学部教授)



# 《二次連携》 連携拠点が仲介する複数職種による連携

## 【実績】

平成25～26年度医科歯科同行訪問研修 計5回

平成25～26年度医科薬科同行訪問研修 計7回

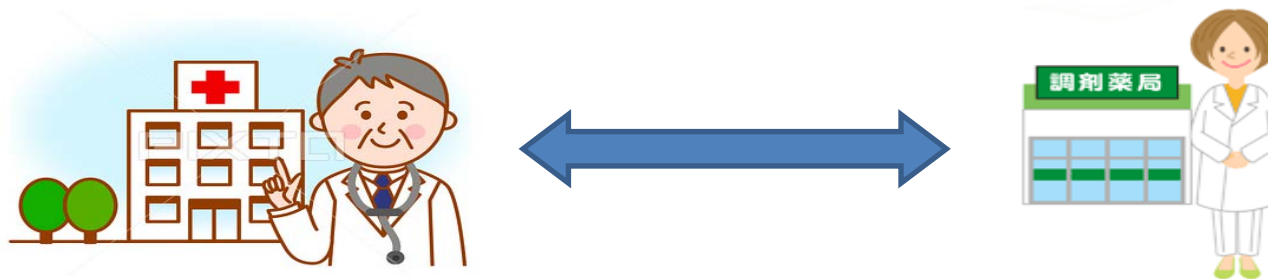


平成25年度ケアマネジャー&薬剤師合同研修会

平成26年度病院連携室&ケアマネジャー意見交換会







チームかまいしの連携手法で、線の繋がりにから、面へ広がりつつある。



ケアマネの  
顔が分からない。

病院薬剤師と  
薬局薬剤師の連携

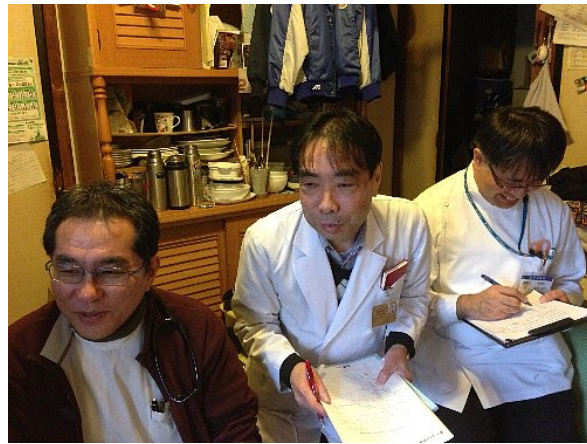
どこに相談  
すればよいの？

「訪問指示」の  
処方箋が来ない

ケアカンファレンス  
に呼ばれない

薬剤師の職能が  
認知されていない





2次連携  
医科薬科在宅医療同行訪問



釜石薬剤師会





2次連携  
ケアマネ薬科合同研修会



釜石薬剤師会

## 2次連携から発展した連携。 薬科介護福祉連携



地域の医療介護に従事する若者が元気である事が  
明るいまち作りで必要な条件。



医療者・介護者・福祉者のための

# ケアカフェ

## かまいし



「ケア・カフェ」は、まったく新しいコンセプトで行われる、医療者、介護者、福祉者の集まりです。顔の見える関係づくりと日頃のケアの相談場所を提供していきます。カフェを訪れるように気軽にご参加ください。



ケア・カフェでは、ジャズの流れるカフェのような雰囲気の中で、コーヒーなどを飲みながら4・5人のグループに分かれてテーマに沿った会話をします。席替えをして話を深めます。さらに内容に参加者（お客さん）全員で共有して、いろいろな意見を持ち帰ることを目的としています。最後は、自由に交流する時間も設けています。

【日時】平成26年4月23日（水）

19:00～21:00

【場所】館

【テーマ】たのしみ

【対象者】ケアに関わる方（医療、介護、福祉）

【参加費】100円



【持ち物】●ネームプレートかネームタグ  
仕事場で使われているものでけっこうです

●マグカップなどのコップ  
席として割れると悲しいので、2番目に気に入っているものを！

●ペンかマジック  
横書きに書くときに使います。  
裏うつりしない細めのマジックなどいろんな色を用意するのもOK♪

●お菓子・スイーツ  
話しながらつまめるものを少量ご持参ください



ケア・カフェのモットーは  
「相互扶助」です！  
ご協力ください

## ケアカフェ開催

連携拠点が行政だったことで、平等、公平に連携が発展し、若手従事者が地域の医療介護の質の向上ため生き生きと自主的に活動し始めた。その延長線で生まれた第一弾企画は「ケアカフェかまいし」。

釜石薬剤師会

# かまいし・おおつち地域医療情報ネットワーク (OKはまゆりネット)

## ◆主な機能

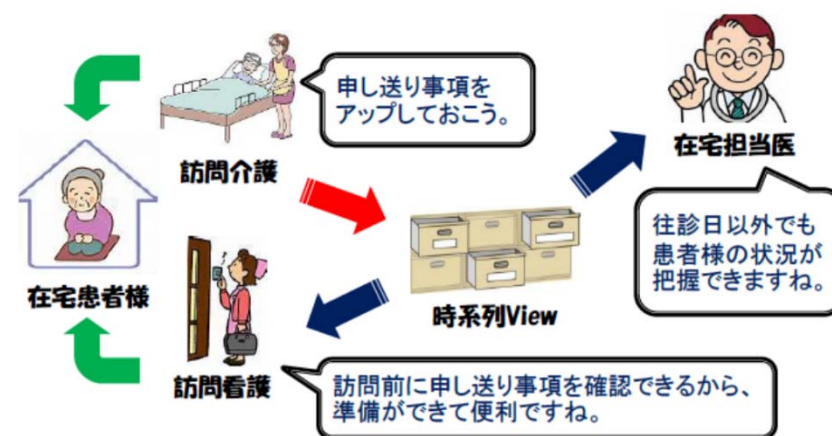
☆他の病院や医科診療所から県立釜石病院の診療の予約

☆ // 各種検査や栄養指導の予約

☆患者の医療介護情報を医療機関・施設間で共有

## ◆加入施設

病院	6/6施設	(100%)
医科診療所	17/18施設	(94.4%)
歯科診療所	13/17施設	(76.5%)
調剤薬局	18/20施設	(90.0%)
介護サービス事業者	25/47施設	(53.2%)



# かまいし・おおつち地域医療情報ネットワーク OKはまゆりネットの活用に向けて

釜石大槌地域在宅医療連携体制検討会  
ワークショップ開催(H26.9.4)  
「各職種が欲している情報はなにか」





# 平成25年度地域医療連携推進フォーラム

日 時:平成25年10月9日(水)18時から 会場:釜石地区合同庁舎

講演①:「治す医療から治し支える医療への転換」

国立長寿医療研究センター総長 大島伸一氏

講演②:「在宅医療連携拠点事業以降の在宅医療・介護の展望」

東京大学高齢社会総合研究機構 特任教授 辻哲夫氏

シンポジウム:釜石の復興を支える包括ケアの構築に向けて」

座 長:県立釜石病院院長 遠藤秀彦氏



# 平成26年度地域包括ケア推進フォーラム

日 時:平成26年5月20日(火)18時から 会場:ホテルサンルート釜石

講演:「住民と対話する医療」

講師:一関市国保藤沢病院 病院事業管理者 佐藤元美氏

対談:「地域包括ケア時代の地域医療～地方から発信する地域包括ケア～」

座長:岩手県立中部病院 院長 遠藤英彦氏

出演:東京大学高齢社会総合研究機構 特任教授 辻哲夫氏

一関市国保藤沢病院 病院事業管理者 佐藤元美氏





# 地域住民への普及啓発

- 在宅医療普及啓発用冊子の発行

- 市民公開講座の実施

平成25年度「がんになっても

安心して暮らせるまちづくり」

平成26年度「食べること生きること

～健康を支える多職種連携～」

- 出前講座の実施

地区民生児童委員協議会、町内会等



# その他の取組み

- ◆地域の医療・介護サービス資源の把握と周知
- ◆一般向け・多職種向け相談窓口の設置
- ◆多職種関係者向け拠点活動等の周知

ホームページ

<http://teamkamaishi.ec-net.jp/>

ブログ

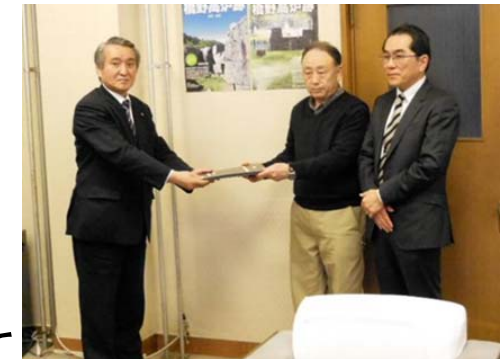
<http://blog.goo.ne.jp/teamkamaishi>

地域連携だより「face to face」の発行

年間5回程度発行、紙媒体で関係施設に複数部送付

- ◆復興を内包した地域包括ケアのまちづくり

平成26年4月釜石市地域包括ケア本部設置



て  
すること



ご清聴ありがとうございました。